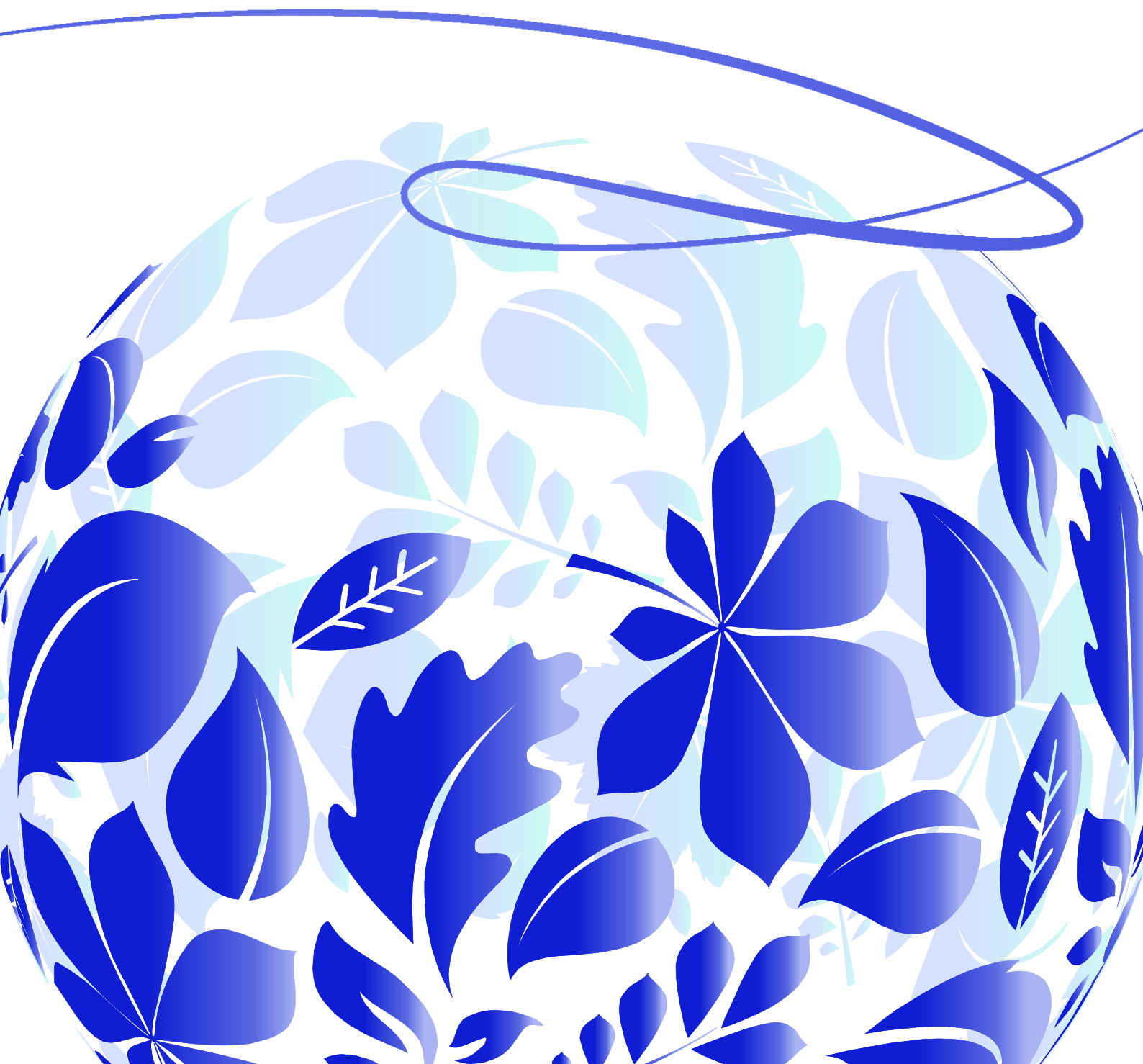


環境報告書2026

NECファシリティーズ



CONTENTS

ごあいさつ	3
会社概要	4
事業概要	5
環境方針	6
環境管理組織図	7
環境コンプライアンス状況	7
2025年度 環境活動ハイライト	8
1. 気候変動に対する取組	
2. 環境負荷低減への対応	
3. BCPソリューション	
4. 環境コミュニケーション	
2025年度 環境負荷データ	13
2025年度 環境管理活動目標・実績	14
2026年度 環境管理活動目標	14
2025年度 温室効果ガス排出量	15
関連HPのご紹介	15
連絡先等	巻末

ごあいさつ

当社は1966年の創業以来、半導体製造業をはじめとする産業の発展を支える工場施設運営のプロフェッショナルとして、日本のモノづくりに貢献してまいりました。

近年、デジタル化の進展、脱炭素への対応、サプライチェーンの変化など、企業を取り巻く経営環境は大きく変わりつつあります。ものづくりの高度化・複雑化が進むなかで、工場や施設は単なるインフラではなく、企業の競争力を左右する重要な経営資産となりました。

こうした認識のもと、当社は「ものづくりの基盤をIntegrated Facility Management（IFM）で支え、持続可能な未来をお客様と共に創る」ことを使命に掲げています。

私たちはお客様にとっての「Facility Lifecycle Partner」を目指し、施設管理・建設・環境の三位一体による価値提供を推進してまいりました。これらは「スマートIFM」として発展し、従来の施設管理の枠を超え、経営課題の解決に資する価値のご提供へと深化しています。

施設管理事業では、ライフサイクルマネジメント（LCM）とDXの融合により、安定稼働と省エネルギー・コスト最適化を実現し、企業価値の持続的向上を支えます。

建設事業では、半導体分野で培った技術力と現場力を活かし、低炭素・BCP・長寿命に対応した施設を企画から施工まで一貫して提供します。

環境事業では、環境負荷低減への取り組みにより企業価値の創造へとつなげる支援を行っています。

我々NECファシリティーズは、これら三つの事業領域を結びつけ、サービス提供にとどまらない、経営基盤を支えるパートナーとしての役割を果たしてまいります。

創業以来培ってきた技術と信頼に安住することなく、変化を先取りし、新たな価値の創出に挑戦し続ける。その責任と誇りを胸に、社員一同さらなる研鑽を重ねてまいります。

この度、2025年度に当社が行った環境活動を「環境報告書2026」として発行し、ご紹介させていただく運びとなりました。

つきましては、是非ご高覧いただき当社の環境活動への取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。



NECファシリティーズ株式会社
代表取締役執行役員社長

尾崎 英次

会社概要

社名	： NECファシリティーズ株式会社
創立	： 1966年12月26日
本社所在地	： 〒108-8556 東京都港区芝四丁目14番1号（第二田町ビル）
資本金	： 2億4千万円
代表者	： 代表取締役執行役員社長 尾崎 英次 ※1
従業員数	： 2,202名（2026年4月1日現在 連結）
売上高	： 1,571億円（2025年度 連結） ※2
グループ会社	： NECプラントエンジニアリング株式会社

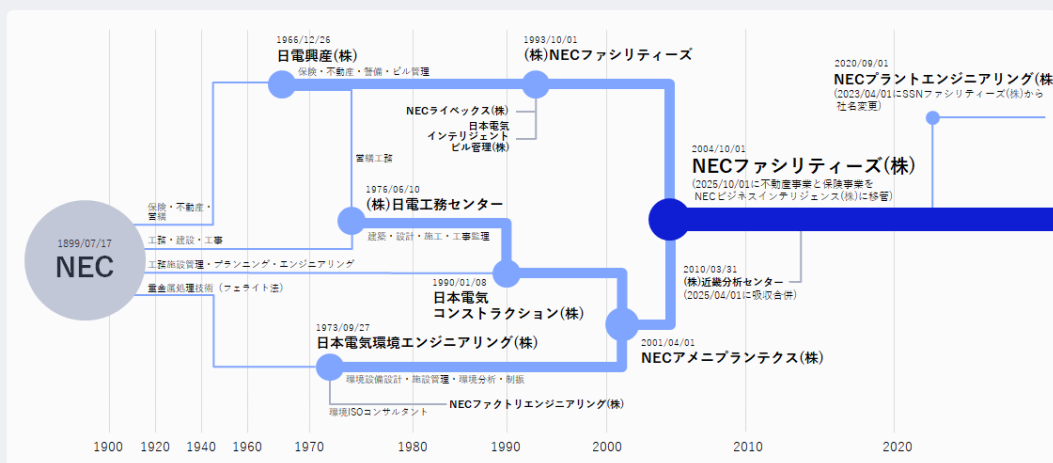
※1：「崎」は「たつさき」が正式表記

※2：IFRS基準

会社の沿革

NECファシリティーズ株式会社の変遷

1966年12月26日創業
1976年6月10日設立



2004年10月

NECファシリティーズ株式会社
に社名変更

2010年 3月

株式会社近畿分析センターを
子会社化
(2025年4月に吸収合併)

2020年 9月

NECプラントエンジニアリング
株式会社を設立
(2023年4月にSSNファシ
リティーズ株式会社から社名変
更、完全子会社化)

2025年10月

不動産事業・保険事業をNECビ
ジネスインテリジェンス株式会
社に移管

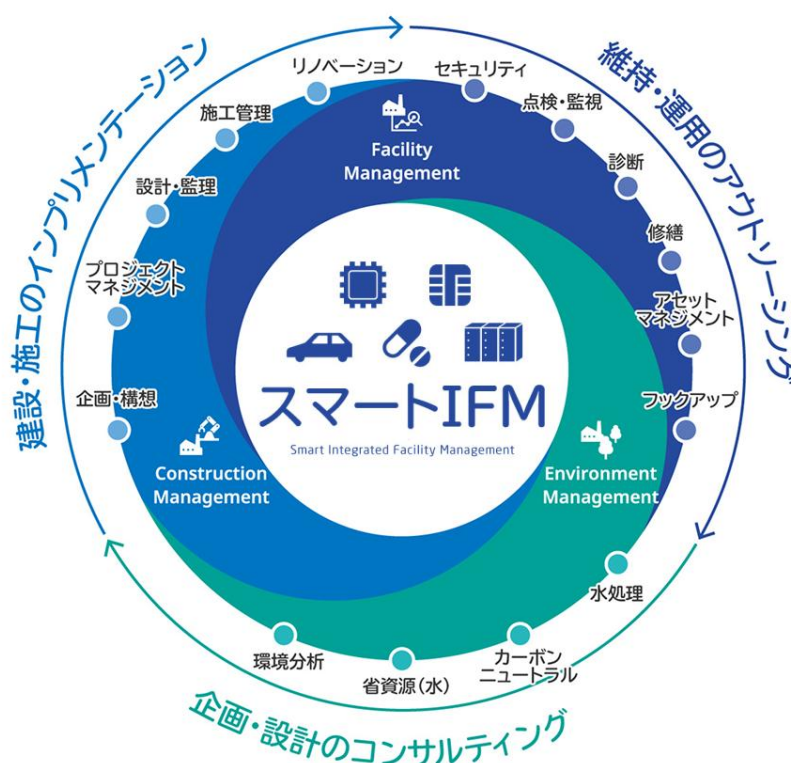
事業概要

私たちは、Facility Lifecycle Partnerとして、 施設管理、建設、環境の観点から お客様の経営課題解決をサポートしていきます。

NECファシリティーズは、製造業のお客様を中心に、建物や設備の設計から施工、点検、リノベーション、修繕、改修まで、施設に関わる幅広いニーズにワンストップでお応えしています。

これまでの施設管理・建設・環境の3事業で培った熟練技術者の知見、設備から得られる各種データの解析、ならびに NECのAIやセキュリティ技術などの先端技術を融合した「スマートIFM」で、安定稼働、老朽化対策、カーボンニュートラル対応など、お客様が直面する中長期的な課題の解決をサポートし、持続可能な施設運営の実現に貢献してまいります。

IFM: Integrated Facility Management



施設管理事業 Facility Management

ファシリティエンジニアリングで
実現する、長期的な最適運用

建設事業 Construction Management

先端技術とトータルサポートで
建設を具現化

環境事業 Environment Management

地域環境保全を環境設備から実現

環境方針

基本方針

NECファシリティーズは、建設、環境、施設管理の事業活動を通じて、一人ひとりの意識の向上を図り、持続可能な循環型社会の形成などの環境保全に貢献します。

行動指針

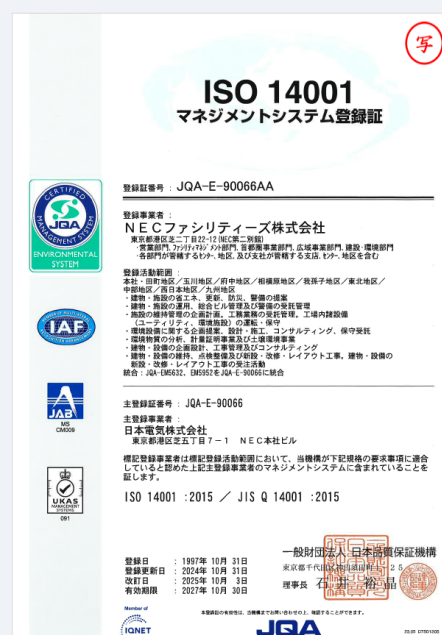
1. 全ての事業領域において企画・計画の段階から環境・安全に配慮し、省資源・省エネルギー、廃棄物発生抑制、再利用・資源化を進め環境影響の低減に努めます。
2. 環境に関する法規制・条例や自主的な取り決め事項を順守し、お客様や社会への責任を果たします。
3. 経営活動の一環として環境目標を設定し、改善活動を展開すると共に定期的に見直しを行い、環境パフォーマンスの継続的な改善と汚染の予防に努めます。
4. 環境方針は、従業員への環境教育・訓練の徹底と共に、協力会社への指導・支援を含め周知し、一般の人が入手可能なように開示します。

NECファシリティーズ株式会社
代表取締役執行役員社長
尾崎 英次※1

※1：「崎」は「たつき」が正式表記
※ 環境方針は社外のどなたでも入手又は閲覧できます。

● ISO14001認証状況

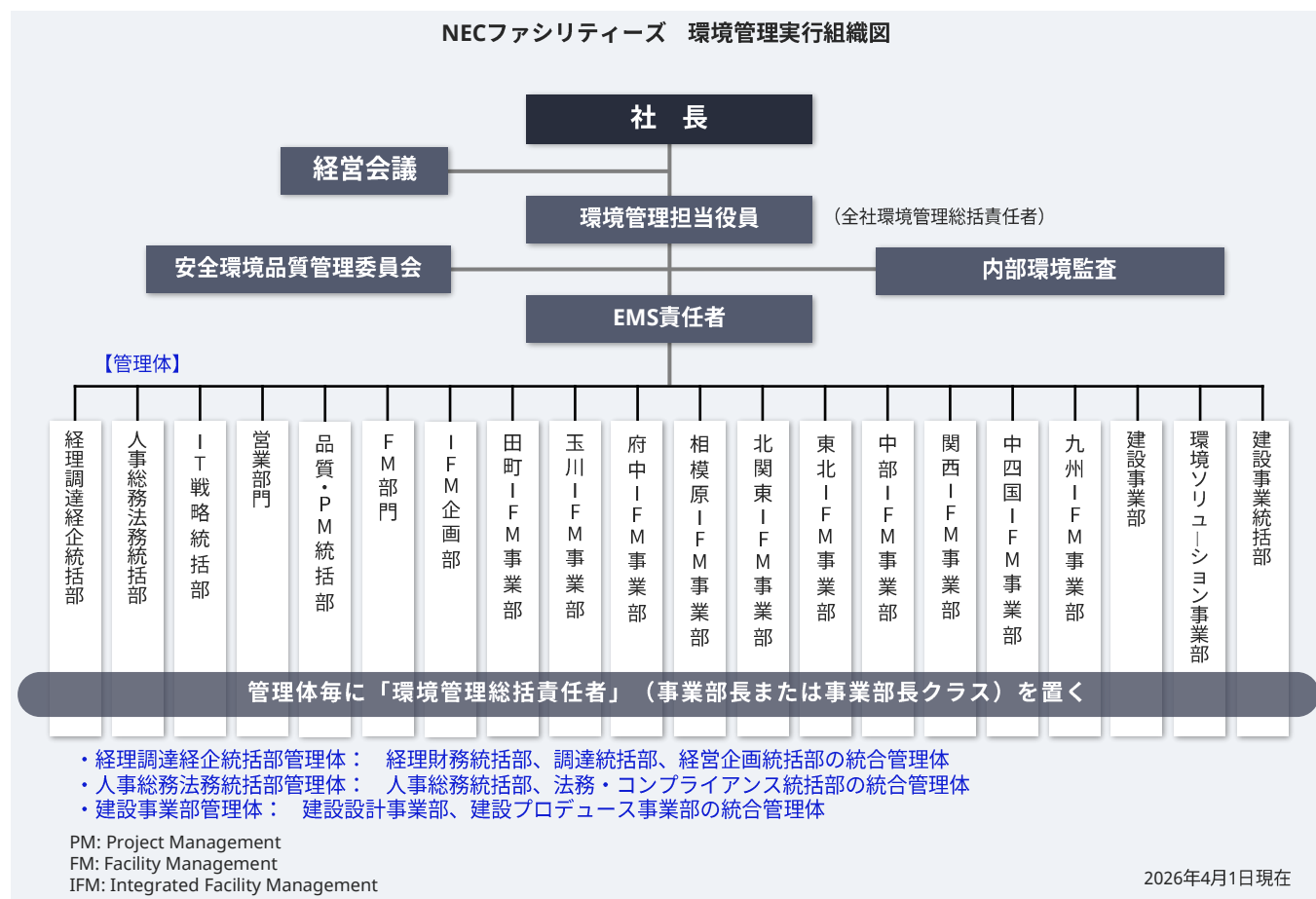
審査機関：一般財団法人 日本品質保証機構（JQA）
登録日：1997年10月31日
登録証番号：JQA-E-90066
登録事業者名：NECファシリティーズ株式会社
東京都港区芝二丁目22-12（NEC第二別館）



環境国際規格「ISO14001」認定登録証

環境管理組織図

NECファシリティーズでは、経営会議により方針を決定し、それを受け、全社環境管理総括責任者による環境管理活動を展開しています。日常の活動は、環境マネジメントシステム責任者（EMS責任者）が取りまとめを行い、各管理体（事業部門）選出の環境管理総括責任者/統括責任者等によって環境マネジメントが実行されています。また、重要事項は環境管理総括責任者で構成される安全環境品質管理委員会により協議、伝達されます。



環境コンプライアンス状況

NECファシリティーズは、定期的に環境関連法規制の順守状況を確認しております。

NECによる環境経営監査、外部審査機関による環境ISO審査を受審、またNECグループ全社員対象の「NECコンプライアンス研修」（eラーニング）を受講し、環境コンプライアンスの順守状況について確認を行っております。

2022年 6月 法律その他の要求事項確認結果 → 不順守事項なし

2023年 6月 法律その他の要求事項確認結果 → 不順守事項なし

2024年 6月 法律その他の要求事項確認結果 → 不順守事項なし

2025年 6月 法律その他の要求事項確認結果 → 不順守事項なし

2026年 6月 法律その他の要求事項確認結果 → 不順守事項なし



2025年度 環境活動ハイライト

1. 気候変動に対する取組

■ NEC Innovation Park建設プロジェクト

○社内/●顧客、●緩和/○適応

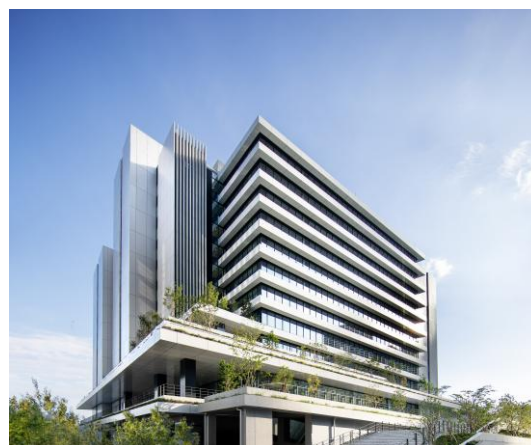
当社は、立地選定から企画・構築、運用管理までをワンストップで支援し、コンサルティングから設計・施工、運用フェーズまで一貫してサポートしています。

NECが2026年4月7日に玉川事業場内にオープンした「NEC Innovation Park」は、世界中のスタートアップやパートナーと交わり、オープンイノベーションで社会価値を創造する「知の創造の場」です。

自動調光システムや高効率空調などの省エネ技術を採用し、「ZEB Ready 認証」※1および「CASBEE川崎 最高ランク『S』」※2を取得しました。

また、2019年の台風被害を教訓に、浸水高への対応や免震構造の採用など、防災性能に配慮した建物計画を立案し、計画から完成まで一貫して関与することで、環境性能と事業継続性を両立した拠点を実現しました。計画段階で掲げた以下3つのコンセプトを、設計・施工を通じて具現化しています。

- ①組織と個人が最高のパフォーマンスを発揮する「Workplace Design」
- ②豊かな緑地環境を創出する「Green Design」
- ③災害に強い建物とする「Resilience Design」



NEC Innovation Parkの外観

※1： 省エネ技術を活用して、設計段階での年間の一次エネルギー消費量について、技術を導入しない場合と比較して50%以上削減した非住宅建築物に与えられる認証です。

※2： 川崎市における、建築物の環境への配慮を総合的に評価する制度です。全国的に用いられているCASBEE（建築環境総合性能評価システム）を基に、川崎市の地域特性を考慮した独自の評価基準を追加しています。

■ 「東京都トップレベル事業所（Silver）」認定取得に貢献

○社内/●顧客、●緩和/○適応

当社は、日本電気本社ビルの保守管理会社として、エネルギー管理の高度化と省エネ施策の企画・実行、設備運用の改善などを継続的に推進し、今回の認定取得に貢献しました。

「トップレベル事業所認定制度」は、東京都が大規模事業所のエネルギー効率や温室効果ガス排出削減の取り組みを総合的に評価する制度であり、「Silver」は高い省エネ水準と計画的・継続的な環境対策が実施されている事業所に付与されます。

【主な省エネルギー施策と成果】

- ・エネルギー使用量の見える化と継続分析
- ・空調・照明設備の高効率化および運用改善
- ・設備稼働状況に応じた最適制御の導入
- ・日常点検・保守による性能維持と省エネ効果の最大化
- ・NEC我孫子事業場の太陽光発電による電力を自己託送で本社ビルへ供給

竣工後35年を経過しており、更なる省エネに配慮した設備への更新・改修を実施しています。更新した熱源機器・照明器具に対してはコミッションングを実施、既存設備との相関を検証して効率的な設備運用改善を継続的に提案・実行しCO₂削減を図っています。

日本電気本社ビルにおいて、実質的に再生可能エネルギー100%によるビル運営を実現し、快適性と業務生産性を確保しつつ、エネルギー消費量およびCO₂排出量の削減を着実に推進しています。



2025年度トップレベル事業所_Silver_橋

■省エネ相互診断活動

●社内/●顧客、●緩和/○適応

当社は、NECと連携し、NECグループの工場を対象とした省エネ相互診断を継続的に実施しています。本活動では、建物設備の省エネルギーに関する取り組みを相互に確認し、照明の高効率化や最適な点灯運用、空調・熱源・蒸気設備の運用改善、排風・給排気の見直し、コンプレッサや太陽光発電設備の維持管理などについて、優良事例の共有と改善提案を行っています。これにより、拠点ごとの実践知を相互に活用しながら、情報共有にとどまらない改善機会の創出と事例の横展開を進め、NECグループ全体の省エネ施策の拡大と現場改善の推進につなげています。



相互診断の様子

■空調設備の運用改善による省エネ施策

●社内/●顧客、●緩和/○適応

首都圏のNEC事業場では、空調設備の使い方を見直し、新たな設備投資を行わずに、大きな省エネ効果を実現しました。

冬場、外調機で加熱した空気を循環空調機で冷却している状態に着目し、外調機からの送気温度を1℃ずつ下げながら最適ポイントを見つけ、ガスと電力の使用量削減に成功しました。

[外調機からの送気温度]

Before : 20-23℃

After : 16-18℃

[CO₂削減効果]

年間約53トン

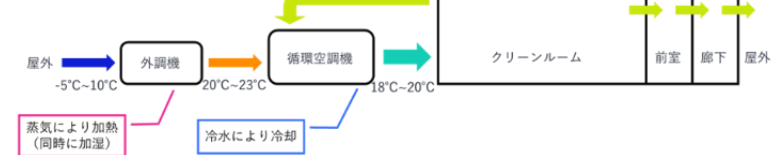
このように、追加コストをかけない運用改善の施策でも、着実な省エネ成果を上げています。

空調システムの運用改善概念図

Before

○クリーンルーム空調機の実施前エアフロー

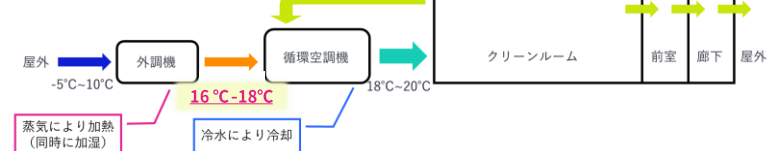
→ : 空気の流れ



After

○方策実施後のエアフロー

→ : 空気の流れ



この他、多くのお客様へさまざまな省エネルギー対策ソリューションをご提供しています。

- 建物 : 屋根の断熱性能改善、窓の断熱性能改善、自然エネルギー利用型建築 等
- 空調 : 空調機リプレース、換気量制御、換気からの熱回収 等
- 電気 : 高効率変圧器、力率改善、分散発電 等
- 照明 : 高効率器具への更新、LED機器、センサー照明、調光システムへの交換 等
- 動力 : インバーター制御、高効率機器へのリプレース 等

2. 環境負荷低減への対応

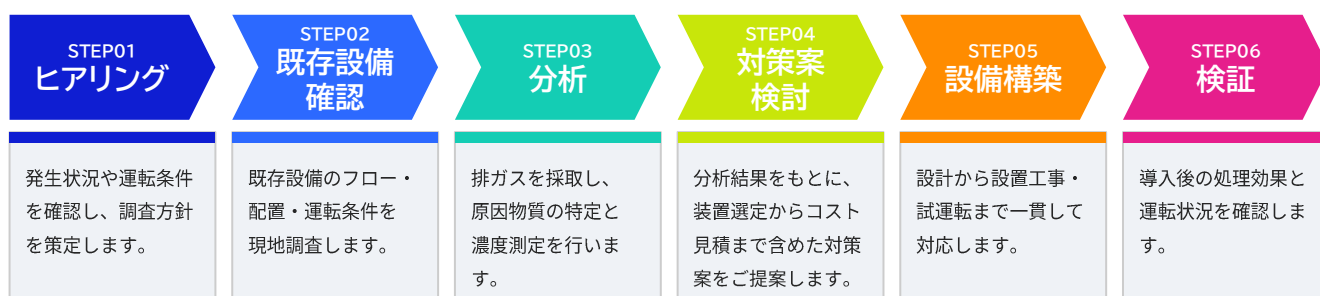
■ 工場排ガス処理装置－白煙防止対策

○社内/●顧客、●緩和/○適応

薬品タンクや製造設備、化学実験装置（ドラフトチャンバー）など多様な薬品を取り扱う工場では、有害ガスの発生に対し排ガス洗浄塔等の処理装置を導入し、環境負荷の低減を図っています。

しかし、運転条件等の要因により処理装置から白煙が発生し、工場周辺の環境や操業に支障をきたすケースがあります。当社は、白煙発生時のガス性状を分析のうえ原因を特定し、最適な「白煙防止対策」をご提案しております。

白煙防止対策の流れ



【対策事例】

お客様から、実験装置で発生したガスを排ガス洗浄塔で処理しているにもかかわらず白煙が生じ、近隣の安全・衛生面で懸念が生じているため、解消したいとのご相談をいただきました。

当社は既設設備の状況確認およびガスの成分分析を実施し、排ガス中の化学物質がヒューム（微粒子）となっていることが白煙の原因であると特定しました。ヒュームは通常の排ガス洗浄塔では除去が困難なため、専用の白煙防止装置をご提案し、導入いただきました。その結果、白煙は完全に解消され、工場環境の改善を実現しました。

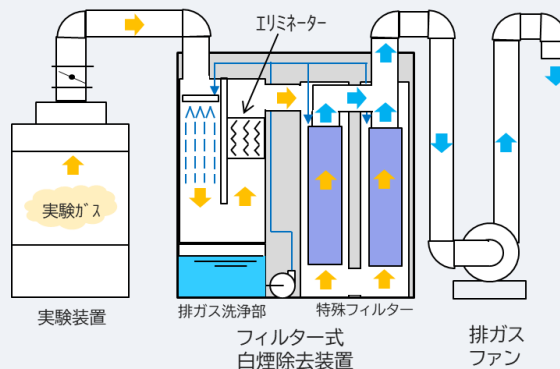
白煙防止対策導入事例



白煙発生イメージ



排ガス分析イメージ



導入設備図

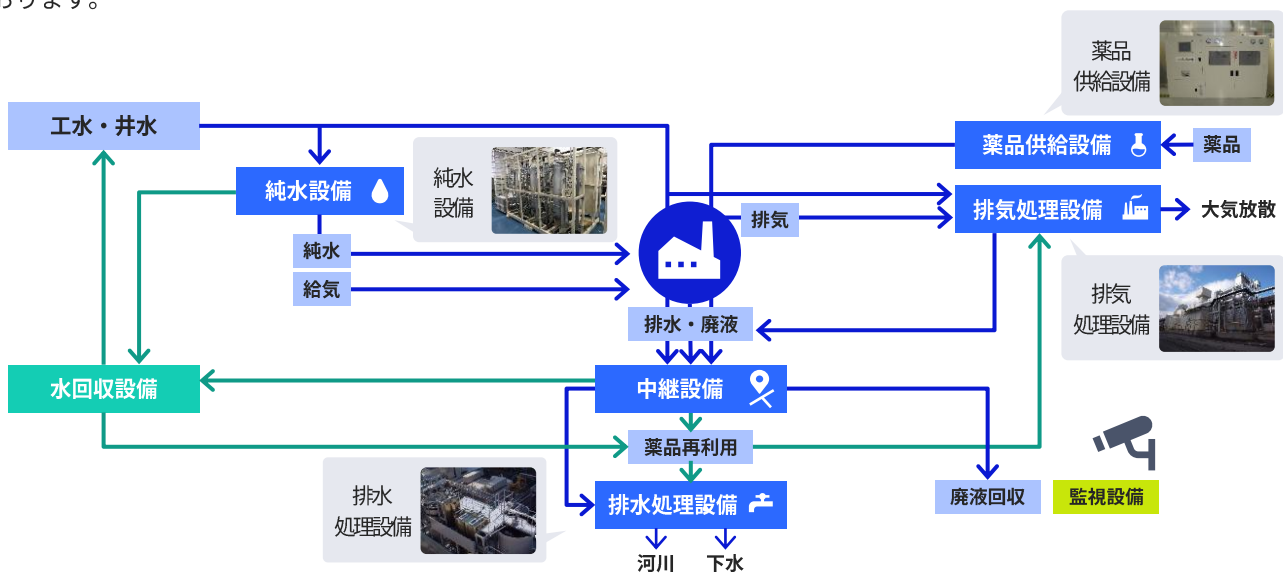
■工場排水処理装置－排水再利用

○社内/●顧客、●緩和/○適応

当社が提供する「水の利活用・最適化サービス」は、工場生産に必要な市水・排水処理・再利用の最適バランスを独自のデジタルツールでモデリングをすることで、水の消費を減らし、地域の水リスクと環境負荷の低減に貢献します。

- ・工場全体の生産への供給装置（水、薬品）から有害物質除去装置（排水、排気）を全体最適で設計から構築まで提案
- ・省資源・省エネルギー、廃棄物発生抑制、再利用・資源化による環境負荷を低減した最適なソリューションを提供
- ・設備の改修・改善・メンテナンス提案、設備施設管理、および水質・大気・作業環境分析を提供

洗浄フッ酸系排水に水質モニタリング設備を導入し、排水を再利用水として送水する仕組みをお客様へご提案しました。2025年度には、ご用命から稼働まで約半年という短期間工事により、年間の工水・下水道使用料5千万円の削減達成を見込んでおります。



工場排水の再利用のイメージ

3. BCPソリューション

■委託先の緊急対応訓練

●社内/●顧客、○緩和/●適応

災害による環境への影響を防止するため、大地震、津波、集中豪雨（豪雪）など高リスクの自然災害を想定した訓練を行い、災害発生時の被害最小化や早期復旧に備えています。

環境リスクはもとより、地域特性や気象変動、周辺環境の状況など、さまざまなテーマや条件を想定した訓練を継続的に実施する事で、緊急事態にも柔軟かつ迅速に対応できる実践的な力を養います。

2025年度は、当社が施設管理を受託しているお客様の事業所も含め、322件の訓練を実施・参加しました。



オイルフェンスを用いた漏出防止訓練



側溝への止水板設置訓練



漏えい廃液の回収訓練

4. 環境コミュニケーション

■環境と共生する半導体工場を担う人材育成

●社内/●顧客、●緩和/●適応

当社は、工場ファシリティの専門知見を次世代に伝え、環境と共生する半導体工場を担う人材の育成に貢献しています。東北大学が運営する半導体人材育成プラットフォーム「S-Hub」と連携し、同プラットフォームで提供されるオンライン基礎講座において、半導体工場ファシリティ分野の講義を担当しております。

2026年3月から開始した本講義は、半導体製造分野に不可欠な工場インフラの仕組みや最新動向の基礎を体系的に学ぶことを目的とし、大学生・大学院生・高専生および社会人を対象としています。

※ 東北大学が開講した全11講義「eラーニング半導体基礎講座」のうち、第9回「ファシリティ概論」を担当しております

「ファシリティ概論」

主な学習内容

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 半導体工場の全体像 | 6. 環境と共生する半導体工場 |
| 2. ユーティリティ設備の基礎 | 7. BCP（事業継続計画）支援 |
| 3. 電力供給システム | 8. 設備診断と保全技術 |
| 4. 超純水製造と水質管理 | 9. ファシリティ人財と業務 |
| 5. 薬品・ガス供給システム | 10. まとめ |

特長

- ・半導体工場インフラの重要ポイントを体系的に学習可能
- ・省エネ、脱炭素、環境配慮、BCPなど最新の社会要請を反映
- ・NECファシリティーズの豊富な現場知見を基盤にした実践的内容
- ・東北大学「S-Hub」と連携した産学連携モデル



eラーニング半導体講座 | S-Hub | 東北大学 半導体クリエイティビティハブ | ポータルサイト

■生物多様性保全・地域とのコミュニケーション

●社内/●顧客、○緩和/●適応

当社は、事業所が立地する地域の皆さまとのコミュニケーションを大切にし、生物多様性の保全と地域社会への貢献活動に積極的に取り組んでいます。

府中IFM事業部は、毎年恒例の「多摩川清掃市民活動」に参加しています。2026年4月11日には、関係各社と総勢73名で近隣の皆さまとともに多摩川周辺を清掃しました。（左側写真）

九州IFM事業部 大分IFM事業所では、「NPO法人 水辺に遊ぶ会」が主催する海岸清掃ボランティアに、2025年5月から2026年3月にかけて計4回参加しました。同会は、瀬戸内に残された生きものたちの楽園といわれる「中津干潟」（大分県中津市周辺）の保全に取り組んでおり、当社従業員も干潟の生態系を守る活動に貢献しました。（中央写真）

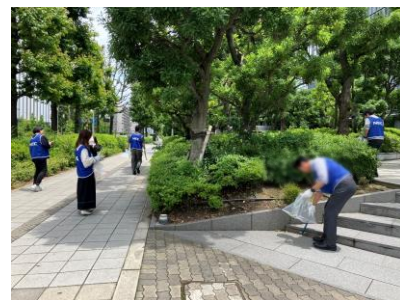
各事業所が地域に根ざした活動を通し、生物多様性の保全と地域との信頼関係づくりに、これからも貢献してまいります。



多摩川清掃市民活動
府中IFM事業部

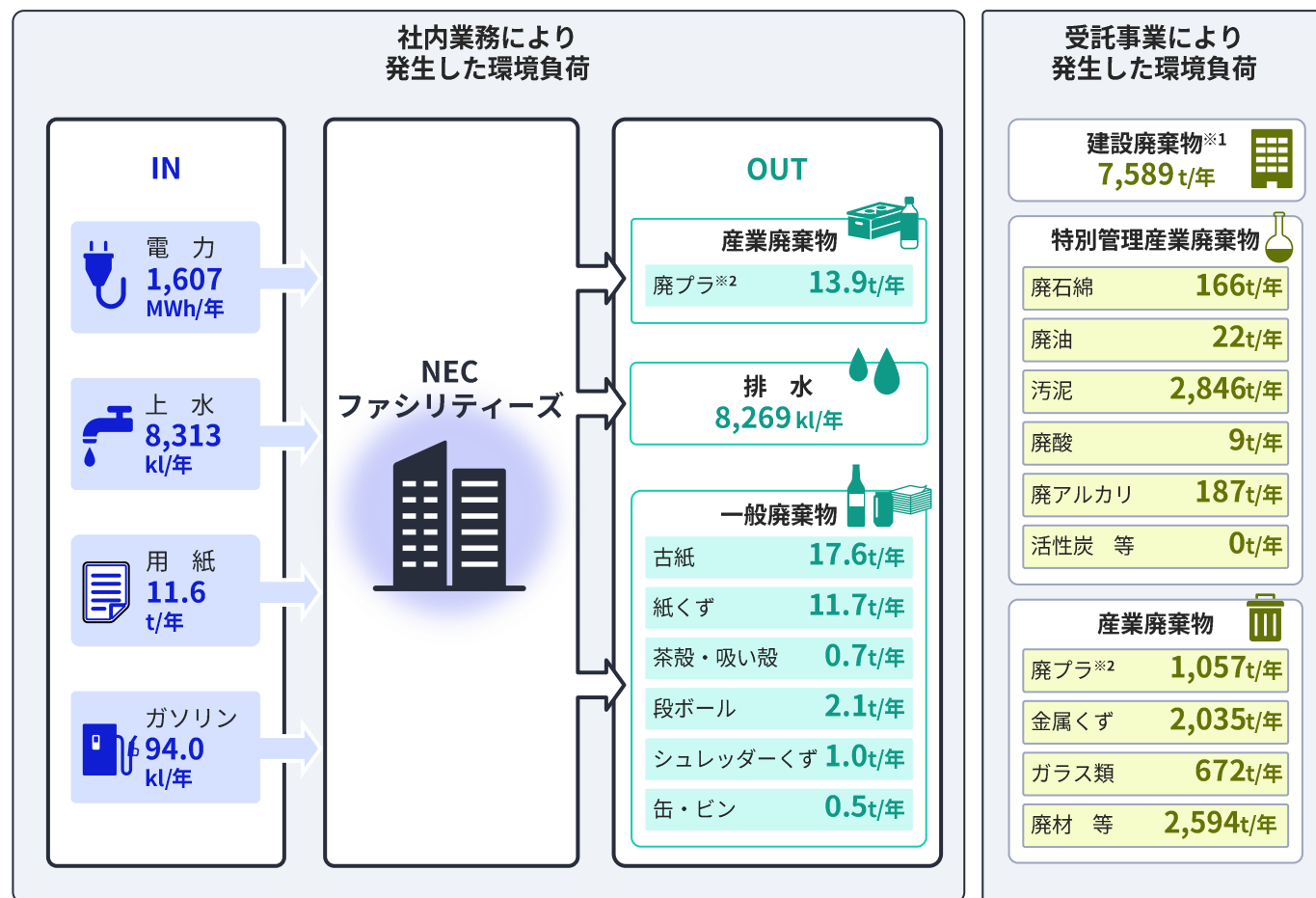


「NPO法人 水辺に遊ぶ会」主催の
ボランティア活動（海岸清掃）
九州IFM事業部



美しい街づくり清掃活動
関西IFM事業部

2025年度 環境負荷データ



※1: 建設廃棄物についてはリサイクル率95%以上を達成しております

※2: 廃プラについては「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に準拠し、「産廃処分場現地確認」「産廃契約書の管理」「産廃マニフェスト伝票管理」「廃棄物管理教育（環境管理専門教育）」により、排出抑制や再資源化促進等を実施しております

【社内業務により発生した環境負荷】

電力: 旧本社（NEC第二別館）、環境ソリューション事業部分析グループ事業所、およびNECファシリティーズがテナント入居する12ビルの合算使用量です。

上水: 旧本社（NEC第二別館）の飲料・生活用途での使用量、および環境ソリューション事業部分析グループ事業所の飲料・生活用途、事業用途での使用量です。

用紙: NECファシリティーズ単独のコピー用紙等の購入量です。

ガソリン: NECファシリティーズ単独の営業車燃料の購入量です。

産業廃棄物: 旧本社（NEC第二別館）で発生した廃プラの排出量です。 ※ 全てサーマルリサイクルされております。

一般廃棄物: 旧本社（NEC第二別館）で発生した事業系一般廃棄物の排出量です。

※ 古紙は機密文書、古紙、MIX紙の排出量です。

※ 古紙、段ボール、シュレッダーくず、缶・ビンはマテリアルリサイクルされております。

※ 紙くず、一般ゴミ等はサーマルリサイクルされております。

排水: 旧本社（NEC第二別館）、および環境ソリューション事業部分析グループ事業所で発生した排水量です。

省エネ法: NECファシリティーズの電力使用量、並びに都市ガス使用量の原油換算値は省エネ法特定事業者（原油換算1500kl）には該当しませんが、省エネプロジェクトを発足し省エネ推進を実施しております。

【受託事業により発生した環境負荷】

建設廃棄物: 建設元請事業により発生した建設廃材等の排出量です。

産業廃棄物/特別管理産業廃棄物: 建設元請事業やその他の受託事業で発生した廃プラ、廃石綿、廃酸等の排出量です。

※ 環境負荷データは、NECファシリティーズ単独で算定しております。

2025年度 環境管理活動目標・実績

環境目的・目標	評価指標	目標値 / 実績値	
目的1 重大環境事故・法令違反の未然防止。 目標：発生件数0件	発生件数 (件)	目 標	0件
		実 績	0件
目標①：事業内容や地域の特性を考慮し、想定した緊急事態対応訓練を実施する。 目標実施率：100%	訓練実施率 (%)	目 標	100%
		実 績	100%
目標②：NEC環境教育（eラーニング）を受講する。 目標受講率：95%以上	受講率 (%)	目 標	95%以上
		実 績	100%
目的2 ご提案書又はそれに準ずる帳票を活用した環境・省エネ提案を行う。 目標：1,000件以上	提案件数 (件)	目 標	1,000件以上
		実 績	1,072件
目的3 NECファシリティーズ対象ビルの電力使用量を2024年度実績見込み（CO₂換算）より3%以上削減する。 目標：425.6 t-CO ₂ 以下	13ビル 電力使用量	目 標	425.6t-CO ₂ 以下
		実 績	336.8t-CO ₂
目的4 生態系・生物多様性保全に寄与する活動に参加する。 目標：850件以上	参加件数 (件)	目 標	850件以上
		実 績	1,316件

※「2025年度 当社環境管理実施計画書「進捗管理」（全社版）」より抜粋しております

※NECファシリティーズ単独で活動しております

※環境ソリューション事業部分分析グループ（滋賀県栗東市）事業所の電力使用量は2025年度活動目標・実績に含まれておりません

2026年度 環境管理活動目標

環境目的・目標	目標値
目的1 重大環境事故・法令違反の未然防止。	発生件数 0件
目標①：事業内容や地域の特性を考慮し、想定した緊急事態対応訓練を実施する。 目標実施件数：287件	実施率 100%
目標②：NEC環境教育（eラーニング）を受講する。	受講率 95%以上
目的2 エコアピールプロポーザルを実施する。	
目標①：お客様へ提案機会のある従業員のエコアピールプロポーザル実施率を向上させる。 [エコアピールプロポーザルの主な内容] ・お客様への省エネ、環境負荷低減に資する製品・サービスの提案 ・NEC/NECファシリティーズの環境活動についてのご紹介 ・お客様へ環境価値を提供するNEC/NECファシリティーズの製品・サービスの紹介・提案 ・お客様への再エネ活用拡大の働きかけ	実施率 51%以上
目標②：ご提案書又はそれに準ずる帳票を活用した環境・省エネ提案を行う。	1,000件 以上
目的3 2030年までに対象ビルの電力使用に伴うCO₂排出量を削減および再生可能エネルギーの一部導入開始を目指す。	
目標①：2030年度再生可能エネルギー導入開始に向けたプランを検討する。 目標達成に向けた取り組みを100%実行する [目標達成に向けた取り組み] 実態把握の継続（データ収集、分析）／テナント入居拠点の再エネ導入状況再調査 ／市場調査、再エネ候補の比較検討（コスト、削減効果、リスク）など	実施率 100%
目的4 生態系・生物多様性保全に寄与する活動に参加する。	808件 以上
目標①：808件（年間4件/人）以上	

※「当社エコアクションプラン2026」より抜粋しております

※NECファシリティーズ単独で目標設定しております

2025年度 温室効果ガス排出量

NECファシリティーズは、事業活動に伴う温室効果ガス排出量を継続的に把握することを目的として、2023年度から算定を開始しました。温室効果ガス排出量は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算出しており、2025年度の活動量に対する当社の温室効果ガス排出量は以下の通りとなります。

Scope	概要	算定対象範囲	温室効果ガス排出量 (単位：t-CO ₂)
Scope 1	事業者が所有または管理する排出源から発生する温室効果ガスの直接排出	社用車使用時の燃料使用量	215
Scope 2	電気、蒸気、熱の使用に伴う温室効果ガスの間接排出	本社、および当社が入居しているテナント計14ビルでの電力消費量	627
Scope 3	Scope 1、および2を除く、企業の上流・下流工程を網羅したその他の間接排出	以下内訳参照	94,749
温室効果ガス排出量合計			95,591

Scope 3 の内訳は以下になります

Category	概要	算定対象範囲	温室効果ガス排出量 (単位：t-CO ₂)
Category 1	原材料・部品、容器・包装などが製造されるまでの活動に伴う排出	自社へ投入された原材料・部品、商品、サービス等全般	92,476
Category 5	自社で発生した廃棄物の輸送処理に伴う排出	一般廃棄物、および建設廃材など産業廃棄物全般	1,502
Category 6	従業員の出張に伴う排出	出張等、業務における移動の際に使用された交通機関における燃料・電力消費	230
Category 7	従業員が通勤する際の移動に伴う排出	通勤の際に使用した公共交通機関（鉄道、バス）、および車、バイク	541

※ 温室効果ガス排出量はNECファシリティーズ単独で算定しております。

※ 温室効果ガスとは、CO₂（二酸化炭素）、CH₄（メタン）、N₂O（一酸化二窒素）、HFCs（ハイドロフルオロカーボン類）、PFCs（パーフルオロカーボン類）、SF₆（六フッ化硫黄）、NF₃（三フッ化窒素）を指しております。

関連HPのご紹介

サステナビリティピックアップページ

NEC

▶ <https://jpn.nec.com/sustainability/ja/index.html>

NECファシリティーズ

▶ <https://www.necf.jp/company/sustainability/index.html>

※ HPアドレスは2026年8月現在のものです



NECファシリティーズ株式会社は『デコ活』に参加し、社員一丸となって、脱炭素につながる取り組みを行っております。

デコ活
宣言

NECファシリティーズは、さまざまなソリューション・サービスを通じて、人と地球に優しい低炭素社会の形成に貢献します。

ご質問/ご意見等がございましたら、お手数ですが下記の発行元/連絡先までお寄せください。

●発行元/連絡先

発 行：2026年 8月

連絡先：〒108-8556東京都港区芝四丁目14番1号（第二田町ビル）

NECファシリティーズ株式会社

品質・プロジェクトマネジメント統括部

TEL：03-5476-5608

※ 2026年3月23日付けで、本社住所が変更になりました（旧住所：〒105-0014東京都港区芝2-22-12（NEC第二別館））